

クロルフィックスショット

適合規格: NEXCO 構造物施工管理要領 表-3-5-4 吹付け工法による断面修復の性能照査項目【試験法432】

1 はじめに

クロルフィックスショットは塩素固定化材を配合したプレミックスタイプの断面修復材です。現場にて練混ぜ、吹付ける直前に硬化促進剤(テクノショットAF)を混合することで、はく落のない安定した断面修復を実現します。硬化促進剤の混合前のモルタルは良好な流動性を有するため、一般的な湿式吹付けによる断面修復工法に比べ、長距離圧送、大量施工が可能な工法です。さらにカルシウムアルミネート系の塩素固定化材を配合しているため、可溶性塩分を結晶の中に閉じ込めて固定化するため、鉄筋の発錆を抑制し塩害を防ぎます。

2 特長

- 塩素固定化材を配合していますので、可溶性塩分を結晶内に固定し鉄筋の発錆を抑制します。
- モルタルの長距離圧送(~100m)が可能なので、プラント設置の自由度が増し、更にプラント移設にかかる工数を削減します。
- 一般の湿式吹付け断面修復工法よりも施工能力に優れ、一度に10cm程度(壁面)の厚みの施工も可能であり、大量施工に適しています。
- ポリアクリル酸エステル(PAE)系粉末ポリマー混和タイプで、鉄筋コンクリート構造物の劣化因子である水、二酸化炭素、塩化物イオンの浸透も抑制します。
- 特殊ファイバー混和タイプで、モルタルの耐久性に大きな影響を与えるひび割れの発生を抑制します。

3 主用途

- コンクリート構造物の断面修復、モルタルライニング

4 荷姿

モルタル材: クロルフィックスショット 25kg袋
硬化促進剤: テクノショットAF 25kgキュービテナ容器

5 標準配合

	水/材料比 (%)	単位量(kg/m ³)		
		水	材料	テクノショットAF
1袋あたり	標準14.0	3.5	25	0.5
1m ³ あたり	(13.0~15.5)	273	1950	39(標準)

※テクノショットAFは、材料に対しての標準添加率は2%(0.5~3.0%可変使用)です。

6 標準使用量

施工厚み10mmで、1m²当りクロルフィックスショットを約20kg、テクノショットAFを0.4kg使用する。

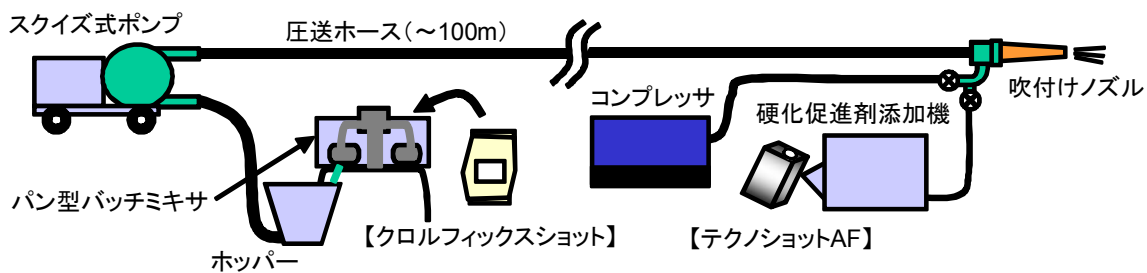
7 物性値(測定例)

20℃物性例

項目	単位	材齢	測定値	試験方法
モルタルフロー (添加剤添加前)	mm	直後	193	JIS R5201 0打フロー
圧縮強度	N/mm ²	7日 28日	36.5 47.2	JIS R 5201
曲げ強度	N/mm ²	7日 28日	8.1 9.3	JIS R 5201
付着強度	N/mm ²	28日	2.2(母材破壊)	JHS432
寸法変化	%	28日	-0.037	JHS432
遮塩性	-	-	普通コンクリート*の1/4	JIS A1171

* W/C=55%,単位セメント量320kg/m³

8 施工システム例



※施工方法の詳細については、「施工要領書」を御参照下さい。

9 使用上の注意

- クロルフィックスショット、テクノショットAFに他のセメント、砂、混和材(剤)等を加えないで下さい。
- モルタルの施工性は温度、湿度等の環境条件により変化します。使用前に試練りで確認して下さい。
- 製品は乾燥した冷暗所で保管して下さい。

Denka

データ等記載内容についてのご注意

- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
- ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
- 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
- ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。
これらの資料は、当社の担当部門にご用意してありますので、お申しつけください。
- 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。



警告



- 水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。
- 目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。●皮膚に付けないこと。
- 鼻や口に入れないこと。●保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。●子供に触れさせないこと。